# 小島地区ふれあいセンターだより

令和5年9月 第399号　運営委員会発行

愛宕3丁目10－2　電話826－7703

## ９月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

| 開催日 | 行事名 | |
|---|---|---|
| １日（金） | 子育て教室 | 午前10時～11時30分 |
| ５日（火） | 小島地区ふれあいセンター運営委員会 | 午前10時～11時 |
| ６日（水） | すこやか運動教室（生涯元気事業） | 午前10時～12時 |
| １２日（火） | 小島中学校区青少年育成協議会 | |
| １３日（水） | 小島愛宕地区老人連合会定例会議 | 午前10時～11時 |
| ２０日（水） | すこやか運動教室（生涯元気事業） | 午前10時～12時 |
| ２３日（土） | 小島地区民生委員児童委員協議会定例会 | 午前10時30分～12時 |
| | 小島地区連合自治会連絡会議 | |

【お知らせ】　皆様のお越しを、お待ちしています!!

### 「長崎くんち　今年の見どころ」（主催講座）開催の御案内

日　時　９月３０日（土）　午前１０時～１２時
場　所　小島地区ふれあいセンター　第１研修室
内　容　今年の「長崎くんち」の出し物を紹介していただき、見どころについて分かりやすい解説や、神輿守・お下り・お上りに関するお話しをしていただきます。
講　師　土肥原　弘　久　先生
（元長崎市長崎学研究所長・ＫＴＮテレビ長崎　くんち解説者）
受講料　無料
申込先　小島地区ふれあいセンター（電話０９５－８２６－７７０３）
申込方法　直接来所、又は、電話による申込み
申込日　９月１日（金）～９月２８日（木）

### 「第３２回　小島地区ふれあいセンターまつり」開催の御案内

〔作品展示〕俳句、書道、水彩画など
日　時　１１月２５日（土）　午後１時～午後４時３０分
　　１１月２６日（日）　午前９時～午後３時３０分
場　所　小島地区ふれあいセンター　１階　図書室・児童図書館
〔舞台発表〕コーラス、民踊、健康体操、太極拳、空手道など
日　時　１１月２６日（日）　午後１２時３０分～３時３０分
場　所　小島地区ふれあいセンター　２階　第１研修室

## ふれあい俳壇

神鈴の緑青（ろくしょう）の艶風涼し　辻原晩夏

錆著（しる）き碇（いかり）を据へて芝青し　永福倫子

築町は魚の匂ひ土用風　大久保俊子

盂蘭盆（うらぼんえ）会われら初手から難破船　許斐洋子

稲の香や水のゆたかな村にすみ　城臺文江

雨上がり雲の峰立つ一湖かな　園田洋子

シャッター押す一期一会の大夕焼　田中怜子

いっせいの扇子に風の癖五つ　田原より子

錆びてなほポルトガル井戸水涼し　並川友子

石垣は江戸の名残よ蔦（つた）青し　松永美記子

稜線をポンと抜きんで月涼し　村川雅代

喧嘩坂上る漢（をとこ）の暑に喘（あへ）ぐ　山本松子

源内は煙管（きせる）片手に土用入　籏先四十三

※ふれあい俳壇は、小島地区ふれあいセンターで活動されているグループ（若芽の会・湾長崎支部岬会）の皆さんの作品です。

---

## 長崎雑話（3）

竹方其

### 出島からの洋馬輸入（三）

律令制のゆるみ、動揺につれ、令制の規定に変動が生じる段階での国家の指定する牧は、諸国馬牛牧、御牧（勅旨牧）、左右馬寮牧（近都牧）の三つに分けられていた。牧では、中国より輸入された馬をかけ合わせて改良し、馬質はかなり向上した。その後、平安時代にかけて中国から優秀な馬がもたらされ、改良され、武士が勃興してくると、その機動性を戦力とするため、強く逞しい馬が要求され、改良されたので、古墳時代以前の馬よりも著しく進歩した。それでも、現在の馬と較べると約三十㎝は低く、ようやく一二一㎝を超す程度で、これより大きいのを良馬とした。優秀な馬と優秀な馬とのかけ合わせにより、約一尺（約三十㎝）も高い馬もみられ、源平時代の軍馬は大体五尺から四尺（約一五一～一二一㎝）が一般であった。十六世紀半ば、南蛮人の渡来により南蛮貿易が始まると、従来とは全く異質の文化や物資も輸入される中に洋馬がもたらされた。その馬の大きさと勇姿に魅せられた施政者は洋馬の輸入に力を尽くし、その後のオランダ貿易時代に入ると、その傾向は、より強く江戸時代を通じて幕末に及んだ。徳川歴代将軍は洋馬の輸入に積極的であり、特に八代将軍吉宗の時世は、並々ならぬ取組みであった。その目的は、日本馬と洋馬との交配によって品種改良を行うことであった。この貿易に直接携わるのは、阿蘭陀通詞であった。彼らの仲介なくして、将軍自らの注文に対して、その目的は達成されなかった。洋馬の輸入から、馬の扱い方、飼育などまで長崎の阿蘭陀通詞が大きく関与していた。

## 長崎〝てくてく〟町あるき　62　MK生

南山手界隈、近隣めぐり③

○ロシア領事館跡

・どんどん坂を下り右折します。途中、居留地の名残が石畳や駒止めにみられます。

・ロシア領事館の標識と当時の階段跡が残っています。元はこの階段の上にロシア領事館が建っていました。ここは、様々な国際問題があり、荒れたままとなっています。

・この側には、石畳が敷き詰められた坂が残り、ロシアコンスイ坂(ロシア領事館の坂)と呼ばれています。

○南山手地区町並み保存センター

・居留地時代の歴史がわかる資料館となっています。

○聖コルベ館

・大浦天主堂前に戻り、松ヶ枝側に下ります。中ほどに、聖コルベ館の看板が見えます。

・マキシミリアノ・マリア・コルベ神父(1894～1941)たちが昭和5年(1930)に上陸後、借りた洋館で、聖母の騎士信心会の日本支部が開設され、「聖母の騎士」誌の出版作業が行なわれた場所です。当時の建物は火災により焼失しましたが、焼け残った赤レンガの暖炉を中心に建てられています。

・コルベ神父は、日本での布教活動の後、1936年にポーランドに帰国。1941年にゲシュタポに逮捕され、アウシュビッツ強制収容所で他の収容者の身代わりとなり殉教しました。

・1971年福者、1982年聖人に列せられています。

○ボーリング発祥の地

・少し下ります。「ボーリング発祥の地」の石の標識がたっています。

・文久元年(1861)ボーリング・サロンが開設されました。(広馬場通り)。居留地の皆さんが、ワインを飲みながら、談笑しながら行なうレジャーの一つと言われます。

・明治2年(1869)には、石碑のあるこの場所に移りました。

・当時のボウルは、大・中・小の三種類で、9ピン制のスポーツでした。

南山手界隈終わり。次回は「長崎橋梁(中島川)」をてくてくします。

---

## 長崎雑話（3）　竹方其

### 出島からの洋馬輸入（二）

日本の在来の馬は、蒙古馬と同じ系統のものと考えられており、一般に日本の在来馬は体格が小さく、頭が比較的大きく、体幅が狭く、後部が短くて傾斜し、筋肉の発達は不良で、速力及び挽力に乏しく、使役を目的とするには、あまり優秀なものではなかった。しかし粗飼に耐え、体格のわりには力強く持久力があった。著名な地方種には南部馬、三春馬、木曽馬、薩摩馬、島馬があげられる。寒立馬は、青森県下北半島で放牧されている比較的小柄な馬である。南部馬を祖とした農耕馬で、気候と痩せた土地に順応する種として改良された。

奈良時代に入ると馬はかなり普及し、武人や身分の高い者は乗用とし、また、白村江の敗戦によって騎兵の必要を認め諸国に令して牧をつくらせ、馬の繁殖に力を入れた。

「牧」が文献に現れてくるのは、令制における諸規定である。『厩牧令』では、馬牛の牧が規定されていて、諸国に牧をおいて官の馬牛の生産にあてている。牧は兵部省の被官である兵馬司のつかさどるところで、各牧には長および帳（書記役）を各一人おき、また牧馬牛の群（百頭）ごとに牧子二人をおく定めであった。これらの牧で飼養・生産されるのは軍用馬及び駅逓用の馬、農耕用の牛であった。令制における牧は、中央集権国家における軍事・駅逓制度上の必要から、地方では、当時に馬牛飼養が放し飼いを主として厩飼いを従とすると規定されて、その官による設置、管理は重要な意味をもっていた。

## 〈新着図書のご案内〉

| | 書　籍　名 | 著者名 | 出版社 |
|---|---|---|---|
| 一般図書 | チャンバラ | 佐藤　賢一 | 中央公論新社 |
| | 方舟 | 夕木　春央 | 講談社 |
| | ブラツクウェルに憧れて | 南　杏子 | 光文社 |
| | 狼剣勝負 | 稲葉　稔 | 双葉社 |
| | 次郎兵衛狐/銅座のお稲荷様 | 稲田　勝次郎 | REGIONAL ARKHE |
| | 魚石/唐人幽霊堂 | 稲田　勝次郎 | REGIONAL ARKHE |
| | 雪のサンタ・マルヤ/蝶々夫人 | 稲田　勝次郎 | REGIONAL ARKHE |
| | 河童石/タンタン竹女 | 稲田　勝次郎 | REGIONAL ARKHE |
| | 飴屋の幽霊/横向き地蔵 | 稲田　勝次郎 | REGIONAL ARKHE |
| | 処断　潜入捜査 | 今野　敏 | 実業之日本社 |
| | 終極　潜入捜査 | 今野　敏 | 実業之日本社 |
| | ヒルズ・エンド | アイバン・サウスオール | 評論社 |
| | 闇の狩人　上巻 | 池波　正太郎 | 新潮社 |
| | 闇の狩人　下巻 | 池波　正太郎 | 新潮社 |
| | 涸れた井戸を覗いた男 | 本川　次郎 | 本川　次郎 |
| | 件のその若者 | 本川　次郎 | 本川　次郎 |
| | それでも龍馬が好き | 本川　次郎 | 本川　次郎 |
| | 金鍔次兵衛が飛んだ！ | 本川　次郎 | 本川　次郎 |
| | 罪責　潜入捜査 | 今野　敏 | 実業之日本社 |
| | 切手もの知り Book　続 | 田辺　龍太 | 郵趣サービス社 |
| | 古書店・小松堂のゆるやかな日々 | 中居　真麻 | 宝島社 |
| | 室町無頼　上 | 垣根　涼介 | 新潮社 |
| | 室町無頼　下 | 垣根　涼介 | 新潮社 |
| | 日本の名城 200 | YUKIMURA | 宝島社 |
| | 脳がゾクゾクする不思議 | 仲谷　正史 | 岩波書店 |
| | メメンとモリ | ヨシタケ　シンスケ | KADOKAWA |
| | なぜか感じがいい人のかわいい言い方 | 山崎　拓巳 | サンクチュアリ出版 |
| | もっと悪い妻 | 桐野　夏生 | 文藝春秋 |
| | 治験島 | 岡田　秀文 | 光文社 |
| | この限りある世界で | 小林　由香 | 双葉社 |